

上顎左右小白歯部にインプラント治療を行った症例

17

樽味 寿(兵庫県開業)

症例の概要

小白歯部の欠損補綴を行う場合、咬合の機能回復のみならず、審美面も考慮することが望ましい。特に中間欠損では、ブリッジ・義歯・インプラントの選択が可能のため、治療期間・天然歯切削の有無・日常の快適性・費用を患者に説明し、治療計画を立てる必要がある。本症例は、歯根破折により抜去された5|4部にインプラント治療を行ったものであり、インプラント埋入から現在まで経過は良好で、患者はすべての面で満足している。

処置内容とその根拠

患者は36歳、女性。他院で抜歯し、義歯が合わずに放置していた4部の処置を希望して来院。天然歯は削りたくないとの要望からインプラント治療(2回法)を選択し、メタルボンドを装着した。その後、歯根破折由来の瘻孔が5|に出現した。インプラント治療を希望されたので抜歯後即時インプラント埋入を行い、メタルボンドを装着した。インプラントは経過良好であるが、日常の食いしばり注意とナイトガードの使用で、新たな歯根破折を予防している。

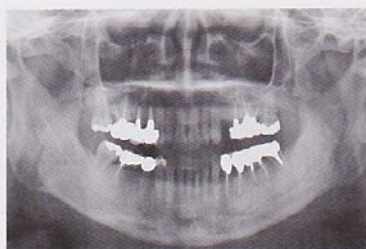


図1 初診時のパノラマX線写真。白歯部は失活歯が多く、4は欠損している。



図2 初診時の上顎咬合面観。5のメタルボンドは咬合面に金属が露出している。



図3 初診時の下顎咬合面観。



図4 初診時の左側方面観。3は未処置の天然歯、5はメタルボンドが装着されている。



図5 初診時の右側方面観。5 4にはメタルボンドが装着されている。

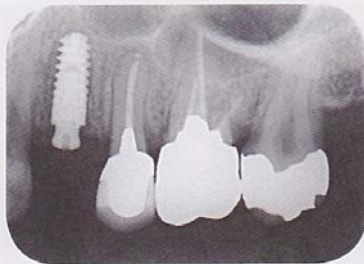


図6 4インプラント(φ3.5×9.5mm)埋入直後のデンタルX線写真。



図7 4装着6ヵ月後、5に瘻孔が認められ、遠心の垂直性ポケットと交通。歯根破折と診断。



図8 5に瘻孔が出現した際のデンタルX線写真。

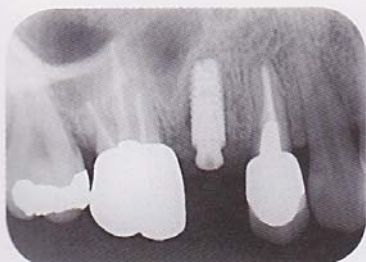


図9 5の抜歯後即時インプラント埋入(φ3.5×9.5mm)直後のデンタルX線写真。

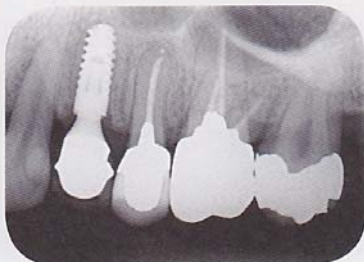


図10 最新の4(インプラント埋入2年6ヵ月後)のデンタルX線写真。



図11 最新の5(インプラント埋入1年3ヵ月後)のデンタルX線写真。



図12 最新の上顎咬合面観。左右のインプラントに審美面・機能面でまったく問題は認められない。